

第 6 回県政戦略会議 議事概要

- 1 開催日時：平成 22 年 8 月 30 日（水）9：15～11：30
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 出席者：知事、副知事、各部局長等
- 4 欠席者：観光局長、出納局長
- 5 議事概要：以下のとおり

（ 議題提出部局説明・回答、 意見・質問 ）

〔資料 1-1～1-5〕

資料に基づき、説明。

（第 1 編第 1 章について）

共通幹事会資料に対し、指摘、意見等を出させていただいたが反映されていない。

P.2 の重点事業の総括において、「高齢者が安心して暮らせる介護基盤整備」が「あまり進まなかった」とされているが、今年度の県政報告書の評価とは異なる。昨年度の評価が「あまり進まなかった」となっている。過去 3 年の評価をもとに記述させていただいている。

P.3 の施策において、一万人アンケートなどの県民の実感と乖離があるものとして、「地域医療」があげられているが、一万人アンケート結果では地域差があり、適当ではないのではないかと。

県民の実感との乖離を表す事例として、一万人アンケートを出している。表現について、今後精査したい。

「県民一万人アンケートの結果などに見られる」の記述を削除すれば、よいのではないかと。

P.5 の「くらしの安全・安心が確立された社会」に関する総括では、自然災害について触れられているが、P.11 の「時代環境の変化と課題」ではソフト対策が中心となって、自然災害対策が薄れている。もう少し書き込む必要があるのではないかと？ 語句の使い方を整理してほしい。安全・安心や防災・防犯は、一つのフレーズとして使用すべきであるが、記述内容にばらつきがある。

P.12 「安全で安心できるくらしの構築」の冒頭で、「県民のくらしの安全・安心がゆらぐ事件・事象が発生しています。」とあるが、この表現は適当ではない。「揺らぐ恐れがある」とか「揺らぎかねない」とすべき。

P.6 の「地域安全対策」で刑法犯認知件数の増加とあるが、今年度前半は減少しており、事実と異なる。

P.9～10 の地域政策であるが、二つのゾーン分けを消すということだと思うが、その必要があるか。

4 年間を振り返ると、ゾーン分けは結局使われていない。例えば、桑名市では、先端技術の産業集積も行われているし、長島を中心とした観光もある。また、東紀州地域において、全国・世界に通用するものが出てもいい。そういうことから、ゾーン

分けは止めた方がいいという判断をした。地域資源を活用するということは大事にしたい。P.16 の県土づくりはもう少し書き込む必要があると思っている。また、地域づくりに関する課題は大きくなってきているので、丁寧に書いている。

P.12～13 において、中山間地域や超高齢化地域における課題を捉えているが、都市部における課題の捉え方が弱い。

偏りがある部分は、今後修正していく。

P.5 の子どもの学力にかかる記述であるが、このような書き方であれば問題はない。P.12 で「学級崩壊が多く発生している。」とあるが、県内では沈静化しており、事実誤認である。

(第1編第2章、第3章について)

P.2 の重点事業の総括で「児童虐待への緊急的な対応」を「あまり進まなかった」とされているが、数値目標の達成状況からいえば、「進んだ」と評価できるところを、鈴鹿市における虐待事件を受けて、「あまり進まなかった」としたものである。P.11 の「時代の峠」の記述で、「子育てや子どもの教育に対する不安」とあるが、「子育てや子どもの育ちや教育に対する不安」としてほしい。P.12 「安全で安心できるくらしの再構築」で、児童虐待が多く発生しているとあるが、相談が多いのであり、正確に記述する必要がある。同じ項で、P.12 の一番下の「こうした中で・・・」は意味がよくわからない。

P.16 の地域づくりの取組方向で、中山間地域への支援を特出ししているが、どうか。また、25日の共通幹事会を受けて、27日に意見を提出しているが、それが反映されていない。共通幹事会と県政戦略会議の位置づけをきちんとしてほしい。

字句の修正は事務レベルで構わないが、県土づくり・地域づくりの考え方は、第二次戦略計画とずいぶん変わっている。中山間地域に関する記述は、大分踏み込んでいる。しっかりと議論が必要である。

P.10 の県土づくり・地域づくりの記述と、P.16 の記述とが論理的につながらない。

P.18 の「雇用・経済情勢への的確な対応」はどのような意味があるのか？

緊急雇用・経済対策は当初から計画に盛り込むようなものではないが、国が急遽経済対策を行った場合、それを受けて実施することをあらかじめ記述している。

「この国のあり方」の県政における位置づけをどう考えているのか？

「この国のあり方」そのものを県政の中で位置づけるのは難しいと思う。

二つのゾーンを見直すならば、P.10 の3行では足りない。もっと丁寧にすべき。

P.21 の「みえ行政経営体系のしくみ」図の市町の書き方が適当ではない。県民と同列ではなく、連携・協働していく相手としての位置づけが必要。また、マネジメントについても総括が必要ではないか。

マネジメントについては、P.19 で総括している。

文化力立県の記述は消えたのか。また、美し国おこしプログラムの記述に唐突感がある。なぜ、重点を二つの取組に分けるのかを説明しないと、県民にはわかりにくい。

「美し国おこし」と「美し国おこし・三重」の記述の仕方を考えているところ。P.16

の「地域づくりの取組方向」での記述も検討したが、美し国おこしだけが地域づくりと誤解される恐れもあるので、今の形での整理となっている。「美し国おこしプログラム（仮称）」の説明は、P.248にも記述している。

P.12～13で県政の課題として捉えている「(3)安全で安心できるくらしの構築」、
「(4)環境問題への対応」について、第2章以降であまり記述がない。課題に対してどう対応していくかの記述が必要ではないか？

課題を受けて、P.14で希望の舞台づくりを進める道具として、3つの考え方を書いており、その後、P.17の「県政展開の方向」で受けている。P.14～17でどのように記述するのかを今後検討していく。

今後の予定はどうか？

9月9日に県政戦略会議を予定している。

9月9日以外にもう1回調整が必要ではないか？

共通幹事会で出された意見も反映させて、もう1回県政戦略会議を開催するよう調整する。

以上